

2008年度 日本文化人類学会
第5回理事会議事録

日時：2008年12月21日（日） 14:00～17:00

会場：上智大学 四谷キャンパス 2号館2-630a教室

出席者：山本、赤堀、上杉、太田、春日、葛野、窪田、栗田、桑山、鷹木、吉岡、和崎

委任状提出：鏡味、岸上、坂井、佐々木、須藤、瀬川、松田 欠席者：大塚、関根、名和

〔承認事項〕

1. 前回（2008年度第4回）理事会議事録を一部の文言を訂正の上で承認された。
2. 新入会員（11名）につき、総務会で入会を承認したことを報告の上で承認された。
3. 前回理事会での総務会一任に基づき、大学評価・学位授与機構に対して機関別認証評価委員会専門委員候補者推薦を行なったことを報告し、事後承認された。
4. 東京大学東洋文化研究所に関する共同利用・共同研究拠点化要請書を会長名で送付したことを報告、事後承認された。

〔報告事項〕

1. 会長報告
 - ・前回理事会での承認に基づき、京都大学で開催予定の国際霊長類学会大会（2010年9月12日（日）～9月18日（土））の後援について、承諾の回答書を送付したことを報告。
 - ・『文化人類学事典』の「刊行にあたって」を執筆したことを報告。
 - ・12月6日に開催された第35回「澁澤賞」贈呈式へ出席したことを報告。
 - ・無期延期となっていた第16回 ICAES (International Congress of Anthropological and Ethnological Sciences 国際人類・民族科学会議) 大会（昆明大会）が2009年7月27日～31日に再設定されたとの通知があったこと、その通知を JASCA-INFO で配信済みであることを報告。
 - ・WCAA で、ICAES 昆明大会中に開催されるシンポジウムへの参加を表明したことを報告。
2. 庶務理事報告
 - ・著作権協会からの複写に係る平成18年度分の著作権使用料34,000円の分配通知があり、分配を承諾したことを報告。
 - ・第4回学会賞受賞候補者の推薦承認に関する持ち回り評議員会（メール会議）が10月12日に招集され、10月31日に締め切られた。43通の回答があり、総務会提案が承認された。この結果を受け、学会賞選考委員会に第4回学会賞受賞候補者の推薦書を発送したことを報告。
 - ・前回理事会で報告された会員名簿の誤記載への対応について、検討の結果、該当者へ経緯を記した詫ひ状を送付する予定であることを報告。なお、今回、訂正表は作成しないこととした。また、次回会員調査の際には、名簿に空欄をできるだけ作らないような方途を検討することと、会員調査アンケートについても回答の際、誤記入のないような表記方法を工夫することとした。
 - ・『文化人類学事典』の刊行案内のため、学会宛名ラベルを丸善株式会社に提供するに当たって先方と覚書を交わしたことを報告。主な内容項目は次の通り。今後も同様のケースでは同じフォームで覚書を交わすこととした。
 1. 当該会員が使用を承諾している宛名のラベルを当学会で印字して提供する。
 2. 宛名ラベルの提供に当たり、印字実費を請求する。
 3. 宛名ラベルは『文化人類学事典』の刊行案内用DMの送付のみに使用し、他の目的には使用せず、かつ、会員の個人情報の保護に反するような行為は行わない。
3. 総務理事報告
 - ・2009年5月29日開催予定の人類学関連学会協議会シンポジウムについて、テーマが「飽くなき食への希求をめぐって」に決定し現在パネラーの推薦を依頼したこと、人類学関連学会協議会について、日本学術会議協力学術研究団体申請書を発送したことを報告。
4. 広報理事報告
 - ・J-STAGE による研究大会抄録公開システムがいずれサービス停止となるとの通知があったことを報告。
 - ・JASCA-NET に出回っているスパムメールについて取り急ぎ対応し、JASCA-NET でお詫びとシステム改善の報告を行なったこと、対策として学会ホームページ上のアドレスを画像化することを報告した。
5. 各種委員会報告
 - ・JRCA 編集委員会：Vol.9の進捗状況について報告。
 - ・英文論文集検討委員会：掲載論文の選定方法、構成等について提案があった。また、検討の結果、学会を挙げた事業としなければ実現は困難であるが、翻訳、英文校閲で費用がかさむため現実的には学会事業化は困難であろうことが報告された。

・国際連携委員会：American Anthropological Association/Council of World Anthropology に文化人類学会第43回研究大会英文案内を送付したことを報告、送付文面を回覧。

・民博連携委員会：上杉理事が以下の報告を代読。

現在歴史委員会が管理している学会の歴史証言の映像資料の扱いについて、須藤委員長、佐々木委員、田村民博副館長を交えた話し合いを行った。その後、民博側で、佐々木委員、田村副館長、小林情報管理施設長の3者が対応を協議し、その結果が須藤委員長に報告された。

民博側と須藤委員長との合意は以下の通り。

- 1) 現在の記録媒体を電子化してDVDなどの媒体に移す作業は、国立民族学博物館側で行うことが可能。その際に、オリジナルの媒体は学会に返却するのが基本方針だが、テープ類の保存管理等に支障があるときには、国立民族学博物館側も考慮する。
- 2) 編集・記録して閲覧可能な状態にする作業も、国立民族学博物館側が行う予定。ただし、編集作業には学会側の編集担当者が立ち会う必要がある。
- 3) 編集された記録は、民博の映像音響資料閲覧室での閲覧も可能にする。できればそれ以外の利用権も国立民族学博物館側に与えてほしいという要望があったが、それについては別途協議する。

3) については、編集された記録の閲覧以外の利用権はその都度検討することが承認された。

・広報・情報化委員会：窪田理事より、学会主催の一般公開シンポジウム「『もの』から見る人間の文化と社会—民族芸術と工芸の人類学」が2008年11月15日に開催されたこと、参加者は53名、大学生が主だったが高校生の参加もあり盛況であったことが報告された。また、継続開催には専門の組織が必要であるとの提案があった。

赤堀理事より、2009年度一般公開シンポジウムは春日理事が担当し、大阪大学中之島センターで2009年11月14日開催予定、テーマは「人類学で世界をみる—医療・生活・政治・経済」とすることが決定し、この内容で平成21年度文部科学省科学研究費補助金研究成果公開（B）に計画調書を提出することが報告された。

・学会歴史委員会：旧民族学振興会所有データを公開の可・不可に分類し、公開可能なものについて先に調査、公開を進めることを検討していること、公開が簡単でないものについてはリストを作成し、著作権等を有する遺族と交渉手続を進められるように検討していることが報告された。

・研究大会運営検討委員会：研究大会の「長期的課題」に関して会員へ「お伺い」（アンケート）を実施し、意見が集まっていること、今後は研究大会について他学会の情報を収集後、委員会を開催予定であることを報告。

・地区研究懇談会担当委員：各地区の開催予定を報告。

・倫理規定検討委員会：倫理規定について、メール会議で検討した結果、倫理「規定」という形が馴染まないのではないかという意見が出たこと、他学会の情報もあわせ今後も検討を継続することを報告。

・『文化人類学事典』編集委員会：書名を当初予定していた『文化人類学事典』から『文化人類学事典』に変更したことを報告。また、『文化人類学事典』会員割引価格について、丸善株式会社と協議の結果、刊行は2009年1月初旬予定、価格は①定価を21000円とする②執筆者割引を定価の1冊目35%引き、2冊目以降は20%引き（共に送料は丸善負担）③会員割引価格は18000円（送料丸善負担）とすることが確定したことを報告。

〔審議事項〕

1. 『文化人類学』の装丁の検討について

- ・春日理事より、装丁の変更について検討の趣旨が報告され、資料を回覧した。表紙については今後も意見を交換し、学会誌の英文名称の変更も視野に継続検討することとした。
- ・ロゴ、レターヘッドの作成についても議論がなされ、ロゴ作成を進める方針および予算化の検討の必要性が確認された。ロゴについてはロゴ募集方法等に関し総務会で検討した上で理事会に提案することとした。

2. 澁澤賞選考委員候補の推薦・学会における澁澤賞の扱いについて

- ・澁澤賞選考委員について、委員長及び新たな委員について総務会案が示され、承認された。
- ・第35回澁澤賞より、学会とは別個に独自の授賞式に行なうこととしたことが報告された。受賞者を会員に通知するため研究大会の懇親会で紹介の場を設けたいということと、学会誌にも受賞広告を掲載することが提案され、この方向で進めることが承認された。なお、有料広告の掲載については、学会誌が受けている文部科学省科学研究費補助金の補助条件を確認して改めて検討することとした。

3. その他

- ・会長より、委員の追加と交代について次の提案があり承認された。

①学会歴史委員会に赤堀理事を追加。

②研究大会運営検討委員会委員長代行として山本会長、委員に栗田理事を追加。

③国立民族学博物館主催国際フォーラム「ライフデザインと福祉（Well-being）の人類学」（2009年2月28日（土）・3月1日（日）於：立命館大学衣笠キャンパス）の後援依頼があったことを報告し、プログラムと趣旨を回覧した。後援依頼はすでに館長の承諾を得ていることから、正式な館長名の依頼書が届き次第、総務会で後援の決済を行なうことが承認された。また、今後は民博連携委員を通して打診をしてもらい、事前に議論できる体制を作ることを確認した。

以上